

マルコの福音書 第1章 38節

「イエスは彼らに言われた。『さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。』」

朝ごとにベランダの掃き掃除をするのを見る。新緑が映える春、植物が勢いよく成長しているのがわかる。成長しているからだろう。いろいろな落ち葉や小枝がベランダに散らばっている。秋の色ではなく、春の色のものだ。毎日のことである。一時も休むことなく植物は活動し、枝葉が落ちる。ベランダで起こっていることが山野で誰にも知られず起こっている。それが、次世代の植物を育むちからとなっている。

イエスが巡るところすべてで福音が必要である。疲れ、悩み、痛み、病み、死のちからに侵され朽ちて行く者たちのところへとイエスの旅は続いている。自然が織りなす、朽ちては肥しとなり次世代を育むような物語は人には無い。人生からこぼれちる者は滅びへと向かうだけである。それをお望みではないイエスさまは一つのところに留まることなく、さあ、と弟子たちを招き人々が生きている現場に足を進める。

進んで、そこにも福音を知らせようと誘う。朽ちて滅びる者のいのちを反転させ、とこしえのいのちに生かす、福音を知らせようと招く。わたしはそのために来た。弟子たちはそのお姿について行く。

2024年5月4日